

砂浜彫刻 保育に生かせ

八学短大生 協調性や想像力養う

制作中の砂浜彫刻を紹介する学生ら



今年のテーマは「繫つなぎ」。学生はゼミ単位のグループに分かれ、スコップで砂山を削ったり、くんできた海水で砂を固めたり、松ぼっくりや貝殻などを飾ったりして、協力し合いながら制作に励んだ。

砂浜には、星と星をつないでできる星座をイメージした作品や、人同士をつなげる通信機器の移り変わりを表現した作品など、アイデア満載の彫刻が次々と姿を現した。

八戸学院大短期大学部幼児保育学科の学生と教員210人は6月29日、八戸市の白浜海水浴場で砂浜彫刻に取り組み、保育者を目指す上で欠かせない協調性や想像力を養った。幼稚園教育要領にある「健康・人間関係・環境・言葉・表現」の

5領域全てを満たしている砂遊びを地元の自然の中で体感し、今後2006年から実施している恒例行事。13回目となる今年、系列校高大連携事業の一環として、八戸学院光星高の生徒も参加した。（三浦千尋）